

事後評価報告書（タイ水害関連研究を対象とした国際緊急共同研究・調査支援プログラム  
（J-RAPID））

1. 研究・調査課題名：「洪水対策のための数値解析モデルの構築と2011年タイ洪水の最高水位の測定」

2. 研究代表者名：

2-1. 日本側研究代表者：京都大学 防災研究所 准教授 竹林 洋史

2-2. タイ側研究代表者：国立エレクトロニクス・コンピューター技術センター

大規模シミュレーション研究室 室長 Sornthep Vannarat

3. 総合評価：研究・調査の目標及び実施環境にてらして、相応な成果が得られている

4. 事後評価結果

(1) 研究・調査成果の評価について

現地調査や氾濫解析を通して、研究対象領域の洪水の全体像を明らかにし、また流域水位低下に効果のある現実的対策を提案した点は評価できる。

一方、解析結果に対する信頼性や、解析手法の一般性について、さらに深い検討が必要である。また、研究・調査終了報告書に記載された具体的研究成果が必ずしも明確でないため、図表などを効果的に使用して説明することが望まれる。

(2) その他（研究体制、成果の発表、成果の展開等）

もう少し研究メンバーを増やして、より組織的な研究体制が構築できていれば、それぞれの研究者の専門分野を補完しあって、さらに円滑に運営でき、より良い成果が得られた可能性があると思われる。

(3) 総合評価コメント

現地調査や氾濫解析を通して、研究対象領域の洪水の全体像を明らかにし、また流域水位低下に効果のある現実的対策を提案した点は高く評価できる。なお、研究実施期間内での成果の公表には至っていないが、今後洪水対策に対する有益な知見の展開を図って頂きたい。